

宮城県保健環境センター年報

平成 18 年度

ANNUAL REPORT
OF
MIYAGI PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No.25 2007

宮城県保健環境センター

はじめに

このたび、宮城県保健環境センターの平成18年度における業績をとりまとめ、年報として発刊する運びとなりましたので、ご高覧の上、ご意見を賜れば幸いと存じます。

当センターは、県民の方々の保健衛生や環境保全の維持向上のため、試験検査、調査研究、関係情報の収集・解析・提供及び技術研修等を行っておりますが、平成18年度には、生かきのノロウイルス対策に関する調査研究、ポジティブリスト制導入にともなう残留農薬や残留動物用医薬品の一斉分析、村田町竹の内産業廃棄物処分場での各種調査と解析、大気中の微小粒子状物質の調査と解析、海藻を活用した水質浄化法の検討などに鋭意取り組んできたところです。

当センターにおいては、平成17年度から外部の専門家や有識者による外部評価制度が導入されており、初年度の機関評価に続き、平成18年度には調査研究課題に対する評価が行われ、調査研究の重要性、県が行う必要性、成果及びその波及性など調査研究全般にわたるご意見をいただき、その対応方針をまとめたところです。

さて、県財政はますます厳しくなり、関連予算の削減、分析機器の老朽化など以前にも増して課題が多くなる中、限られた人的・物的資源の下で、より県民ニーズや行政課題に密着した調査研究等の遂行とその成果を各方面に還元することが求められています。また、団塊の世代の大量退職の時代が始まっており、経験豊かな職員が退職した後の調査研究等の技術水準の維持が求められています。このような状況を踏まえ、当センターでは平成18年度にセンター改革五ヵ年アクションプランを策定し、「県民の健康と生活環境を守るための保健環境分野の科学的中核施設」としての役割を果たしてまいります。

今後とも、県民の皆様方の理解が得られ、充分期待に応えられますよう、調査研究体制の充実、精度管理の充実、健康危機管理体制の強化など、保健環境分野の課題に対して積極的に取り組み、研鑽してまいりますので、更なるご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。

平成19年9月

宮城県保健環境センター

所長 高橋正弘

目 次

A 事業概要

I 総 説

1 沿 革	1
2 機構及び業務分担	1
3 職 員	2
4 決 算	3
5 主要機械器具	4
6 技 術 研 修	7
7 講 師 等 派 遣	8
8 学術情報の収集	10

II 概 況

1 企画情報部	11
2 微生物部	13
3 生活化学部	18
4 環境化学部	20
5 大気環境部	22
6 水環境部	27

B 調査研究

I 論 文

芽物野菜等の食中毒菌汚染実態調査	31
山田 わか 菅原 直子 佐々木 ひとえ 加藤 浩之 小林 妙子 渡邊 節 齋藤 紀行	
腸管出血性大腸菌感染症が多発した地域における感染経路の解明	34
三品 道子 高橋 恵美 佐々木 美江 畠山 敬 上村 弘 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
レジオネラ属菌の衛生管理に関する研究	38
佐々木 美江 高橋 恵美 三品 道子 畠山 敬 上村 弘 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
井戸水を原因とした乳児ボツリヌス症 の発生とその疫学的対応	41
畠山 敬 三品 道子 高橋 恵美 佐々木 美江 後藤 郁男 上村 弘 谷津 壽郎 齋藤 紀行 葛岡 勝悦 齋藤 善則 清野 茂 嵯峨 京時 高橋 美保 岩松 良弘 小泉 みどり 千葉 文明 大山 英明 藤原 公男 佐藤 仁一 鹿野 和男	

<i>Listeria monocytogenes</i> による ready-to-eat 食品の汚染実態	45
菅原 直子 佐々木 ひとえ 加藤 浩之 小林 妙子 渡邊 節 山田 わか 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
2006/07 年シーズンに検出されたノロウイルス遺伝子型についての検討	49
庄司 美加 植木 洋 佐藤 千鶴子 佐藤 由紀 沖村 容子 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
レプトスピラ症依頼検査について	52
沖村 容子 庄司 美加 佐藤 千鶴子 佐藤 由紀 植木 洋 上村 弘 齋藤 紀行	
残留農薬分析の抽出法に関する基礎的検討	58
氏家 愛子 長谷部 洋 柳田 則明	
カラムスイッチング-LC/MS/MS による残留動物用医薬品の一斉分析	62
遠藤 美砂子 柳田 則明	
一般廃棄物最終処分場浸出水及び一般廃棄物焼却灰の塩類調査 (第2報)	66
柳 茂 菅原 隆一 高橋 紀世子 葛岡 勝悦 岩澤 理奈 斎藤 善則	
酸性雨自動測定に基づく事例解析 (2)	72
仁平 明 木立 博 高橋 誠幸 加賀谷 秀樹	
自動車排出ガスによる汚染状況と自動車交通量の関連	77
高橋 誠幸 木立 博 仁平 明 加賀谷 秀樹	
浮遊粒子状物質自動測定機のメーカー間の差について	80
木立 博 高橋 誠幸 仁平 明 加賀谷 秀樹	
パッシブサンプラーによる県内の大気汚染状況	84
北村 洋子 佐久間 隆 小泉 俊一 木戸 一博 加賀谷 秀樹	
宮城県における有害大気汚染物質調査	88
佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 木戸 一博 加賀谷 秀樹	
ディーゼル発電施設排ガス実態調査及び環境影響調査	94
小泉 俊一 佐久間 隆 北村 洋子 木戸 一博 木立 博 高橋 誠幸 仁平 明 小室 健一 高橋 正人 中村 栄一 加賀谷 秀樹	
バイオアッセイ手法の水環境水への適用と事業場排水調査事例について	98
阿部 郁子 大金 仁一 阿部 公恵 高橋 紀世子 栗野 健 佐々木 久雄 嵯峨 京時	
伊豆沼・内沼湖畔試験池の水生植物の栄養塩吸収	103
渡部 正弘 大金 仁一 小山 孝昭 栗野 健 佐々木 久雄	
鉛川湧水調査結果 (第3報)	107
清野 茂 小山 孝昭 須田 富士子 小川 武 栗野 健 大庭 和彦 北風 嵐 嵯峨 京時	
松島湾における藻場の生態系調査結果について (第2報)	110
佐々木 久雄 小山 孝昭 久保田 龍二	

II 資 料

基準等を超えた食品からの細菌の分離と同定	115
佐々木 ひとえ 菅原 直子 加藤 浩之 小林 妙子 渡邊 節	
山田 わか 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
ブタからのインフルエンザウイルスの分離	117
佐藤 由紀 庄司 美加 後藤 郁男 植木 洋 佐藤 千鶴子	
沖村 容子 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
宮城県結核・感染症発生動向調査事業	120
微生物部	
感染症流行予測調査	124
微生物部	
平成 18 年度に宮城県で発生した 2 類 3 類感染症	128
微生物部	
平成 18 年度食中毒検査結果	129
微生物部	
平成 18 年度収去食品検査（細菌検査）実績	130
微生物部	
PP2A 阻害法を用いるオカダ酸群測定キット及び ELISA 法による イエットキシン群測定キットの実証試験結果	131
千葉 美子 福原 郁子 柳田 則明	
平成 18 年度生活化学部検査結果	134
生活化学部	
産業廃棄物最終処分場における発生ガス及び水質に与える降雨の影響	137
菅原 隆一 柳 茂 高橋 紀世子 葛岡 勝悦 斎藤 善則	
環境中全 PCB 分析の検討 (2)	142
鈴木 滋 菱沼 早樹子 中村 朋之 岩澤 理奈 斎藤 善則	
大気中の揮発性有機化合物調査	145
佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 木戸 一博 加賀谷 秀樹	
ボツリヌス菌が検出された井戸水の水質特性	147
清野 茂 嵯峨 京時	

III 調査研究課題一覧	149
--------------	-----

C 研究発表状況

I 他誌論文抄録	151
II 学会発表等	157
III 研究発表会	161